

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JR北海道社員研修センター	階数	地上7F
建設地	札幌市手稲区曙1条3丁目445-6の内、477-30の内	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	350 人
気候区分	1地域	年間使用時間	5,000 時間/年
建物用途	事務所,ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2015年6月1日
敷地面積	12,194 m ²	作成者	
建築面積	6,551 m ²	確認日	2015年6月10日
延床面積	17,871 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 自然環境に配慮した、建物機能の向上を目指すと同時に、地球環境及び近隣に配慮した建築計画とする。中央監視設備により照明・空調・換気の運転・監視を行うことで効率的運用を行う計画とした。また、電力量・給水量・ガス量の計測、給湯量・外気温・各系統電力の計測を行いエネルギー分析管理機能(BEMS)によりエネルギー利用や運用に関する最適化の検討を支援する計画とした。		A 省エネルギー 自然風通・自然光を有効利用すると同時に、高効率な機能を採用し、エネルギーの低減を図った。Low-eのペアガラス+断熱サッシの選定により、熱負荷低減に配慮した。照明器具は全てLED光源の器具を採用することで照明電力の削減を行う。また、照明制御についてはトイレ・階段室に人感センサー制御を採用。照明制御盤を1階通信機器室に設置し、宿泊室以外の全館の統合管理を行う。共用部の一部
B 省資源等 スパンと階高の合理的な構造計画とすることで、躯体・仕上りに使用する資材の低減を図った。外装材はメンテナンスフリーかつ耐久性の高い材料とした。	C 緑化 「札幌市緑の保全と創出に関する条例」の許可基準に基づいた植栽計画とし、周囲の既存緑地と連携することで、地球環境負荷の低減を同時に取り組んだ。	D 雪処理 駐車場の配置を集約化し、除排雪がし易い計画とした。又、緑地の一部を堆雪スペースとして利用できるように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される